

## 自然とのふれあい（その2）

### ——親子キャンプ——

#### 斉藤芳子

終戦直後の夏、保育者研修会が箱根の山であった時、朝もやに煙る野外で、世界的に有名な賀川豊彦先生のお話をきいたことがあります。

長い苦しい戦争で、苦難と忍耐のぎりぎりの生活をして生き残った身には、次第に朝もやが晴れあがって、浮き出てくる深い緑の山の偉容と、ふもとの鮮やかなあじさいの花の紫色は心にしみました。

その山に向って声を限りに

「山べに向いて我 目をあぐ

助けはかずかたより 来るか

あめつちの神より

助けぞ 我にきたる」

と、目をうるませながら歌った心の感動を、忘れることが出来ません。

戦争と生きることへの心労で、日夜を過して来た生活の後だけに、忘れていた自然は新鮮であり、生命にみちみちていました。

「もろもろの天は 神の栄光をあらわし

大空は　みてのわざを示す」

思わず詩を口ずさみながら、山の自然を、目のうつばりの取れた思いで、深く息を吸って見直しました。

夏のキャンプのシーズンになると、今でもその時の感動を心に感じます。毎日の生活が忙しくなり、複雑になり、機械化され、合理化されてくるにつれて、ときどき郷愁のように自然を求め、自然の中に入りたいという本能的な欲求を持つことがあります。

生き生きした大自然の中で、きれいな夜空を仰いで、健康的な、解放された生活を味わいたいと思う気持は現代人の共通の思いではないでしょうか。だからバカンスには、海へ山へ、ハイキングへと出かけるのでしょ。

私達の幼稚園では、昭和三十八年の夏より幼稚園児の親子キャンプをはじめました。

場所は宮城県宮城郡利府町森郷惣の関にある、幼稚園より車で二十分位のところ。キリスト教森郷キャンプ場

を、毎夏予約して、二十三年つづけております。山の中にある約二万坪のキャンプ場の鳥の村・花の村に、三段ベッドの九人入りの山小屋風のキャンピングが六軒あります。松林の中には、新館や、グリーンチャペルがあり、山の中央に本館、礼拝堂、ホール、食堂、浴場、ゲストハウスなどがあり、約百人程が泊られます。

ここで一泊二日の、寝食を共にする、家族的な親子キャンプをいたします。

自然の中の生活には、人為的な教材、教具は持ち込まず、自然環境を教室として、山や沼、森や小鳥、夜空の星や天の川などに心をとめて、ふれあう自然を教師、教材として、大自然の神秘性、科学性に気づくように、心を配ります。

キャンプ中は、親子で自発的に、散歩、観察、採集などの自然とのふれあいの時を持ち、親子と対話をしながら、学びを自由にします。勿論、先生のアドバイスを求

められたり、百科辞典は自由に親子で使っております。

うた

「森もお山もお日様も、お造りなされた神さま

なんてきれいな空でしょう

なんてきれいな、花でしょう」

おやつの集合の時は、大声でみんなで歌いました。森の広場で……

先生「森もお山も……森ってわかりますか」

子「わからない」

先生「森ってここですよ。こんなに木がいっぱい立っ

ているところを、森というのよ」

子「わかった、わかった」

キャンプの最後の日には、キャンプ生活の感想や印象

的だったことを、幼児には絵に、大人には作文に書いてもらいます。

・園児との話合いでは、

(1) キャンプファイヤーで歌ったり、花火をしたこと。

(2) お友達とキャビンのベッドで、一人で寝たこと。

(3) 大きなお風呂で、大ぜいのお友だちと一緒にお風呂に入ったこと。

などが嬉しいようでした。

・父親の感想

(1) 二日間、子どもとずっと一緒に生活をしたのははじめてだ。先生と子ども、子どもとお友だち、子どもの生活が十分観察出来て、父親としてこんな有意義なことはない。

(2) 先生に、子どものためにも有給休暇を取れといわれたが、私のためにもなった。あくせくと仕事をするだけが能じゃない、と、他の人生もあるような気がしてき

た。

などの発言がありました。

・父親の作文より  
「園長先生の「東北の軽井沢」という言葉にひかれて、子供と一しょに参ったのですが、来てみて本当によかったと思っ

ています。

仙台の近郊の交通も比較的便利な所に、こんな静かなキャンプ地があることは、実に意外でした。本館やキャンピンの設備も、簡素ながらよく整い、管理に当っておられる方々や、またそれを利用している方々の行き届いた心遣いのほども忍ばれて、本当に気持ちのよい一日を過ごさせていただきました。

然し環境や、設備の良さもさることながら、来てみてもっと良かったと思つたことは、集団の中における自分の生活態度というものを、まる一日にわたって観察出来たことと、幼児教育を、宗教的なふん囲気の中で実践しておられる先生方の言行と、それを受け入れる子どもたちの態度から、反省しなければならぬ幾つかの事柄を考へさせられた事です。

とにかく思い出になる一日でした。」

・母親の作文より

「自然の尊さが、この様に私達親子に幸を与えて下さるうとは、今まで思つてもおりませんでした。忙しい毎日の連続で、子どもたちともじっくり一日を一緒に遊んで

やることも少なく、このような機会を与えて下さった神様のお恵みに感謝すると共に、本当に楽しかった一日を喜んでおります。

普段の家庭生活では発見出来ない子供の行いも、自然をバックにのびのびと、ありのままを全部出しつくしたような生活態度に、涙の出るような喜びを感じました。

仕事を持っております私は、この様な行事で行われる、キャンプファイヤー、ゲーム、フォークダンスなど、数々の思い出もさることながら、一番の収穫は、たとえ短い一日でも、親子が一挙一動を共に楽しく過ごさせていただいた事が一番の思い出として残るのではないかと存じます。子どもたちも初めて山小屋で、お友だちと一緒に寝たこと、楽しい童話、ゲーム、ダンスなど、よい思い出を得たことと思えます。楽しかったキャンプ生活を本当に有難うございました。」

・父の句

昔した ぶき掃除する へびり腰

(キャンピン掃除)

子は寝ずに 大人だけ寝た 昼休み

(キャンピングにて)

参加されたお母さんは、三食付で家事からの解放感と、大自然の中の解放感で、一日中子どもと共の自然のふれあい、子どもとのふれあいで、皆生き生きと若返って、子どものように楽しそうでした。

親子キャンプのねらいは、一番むつかしい大自然の中の日常生活の自然とのふれあいかた、自然に気づき自然を知ること、自然の中で遊んで学ぶことの生活の仕方を学ぶことです。自然の中で心のゆとりを取りもどし、親子で体験勉強や自発遊び、自立生活が出来たらとのねがいです。

夜はキャンプファイヤーが終わったら、子どもは八時就寝、自分のキャンピングに帰って一人宛二段ベッドの下段に寝て、先生に童話の本を読んでいただき、眼をつむって

静かにききながらおねむりです。

大人は別館の広間で、茶菓を真中に円くすわり、父母、祖父母の間に園長も先生も共にくつろいで、それぞれの話題に話はずみずみ。お父さんの話には社会の視野を広められ、祖父母の話は実践的でよいアドバイスになり、若いお母さん方は互の教育の苦心談や質問、幼稚園のPTAでは出ない活発な意見が出て、なごやかな教育懇談会です。

子どもの寝静まった頃、鳥の村・花の村のキャンピングへ帰り、下段の子どもの独り寝の顔を見て、安心して上段のベッドにのぼってゆきます。

「こんなに早く眠るのは、はじめてだわ」などの声がきこえます。

大自然の夜の深いしじまにゆっくり寝て明朝早く、小鳥のさえずりを聞きに、朝の散歩をして下さい。